

の概数は 10000 人のうち 1000 人程度という計算になる。この人たちの所属先は自治体 32.3%、健診機関と栄養士会（栄養ケアステーション）がそれぞれ 11.7%、11.3%であったことから、自治体における特定保健指導実施者の確保が徐々に進んでいると考えられた。

一方、特定保健指導に従事する予定が無い者は全体で 56.1%であったが、この内特定保健指導者の募集があれば是非応募したいと答えた者が 35.9%いたことから、およそ 2000 人の修了者が、特定保健指導の実施の場を求めていると考えられ、今後この修了者たちと求人側のマッチングが進むことが期待される。これらのことから、平成 19 年度に実施された特定保健指導実践者育成研修ではおよそ 10000 人の修了者を生み出し、そのうち 4000 人の実施予定者と 2000 人の実施希望者がいることが推定された。

ところで、特定保健指導実施者の養成は今後も引き続き必要と考えられるが、研修修了者の質の向上は欠かすことができない。今回のアンケートにおいても「対象者の課題を見出し問題解決までの手順がうまく出来るか不安がある」と答えた者が 62.2%、「継続指導の事後評価に不安がある」と答えた者が 59.9%と多数を占めた。これに対して「特に不安が無い」と答えた者はわずかに 5.8%に過ぎなかった。おそらくこれからスタートを切る特定保健指導であることから、未経験のことに対する不安感が、このようなデータに表れてきたと考えられるが、これらに対して修了者は「経験を積む」、「研修会に出来るだけ参加する」をそれぞれ 80.9%、75.2%と圧

倒的高率で選択している。このことから、実践を通じた経験的な技術力の向上は当然期待しなければならないが、これだけでなく、日本栄養士会・都道府県栄養士会や管理栄養士養成施設などが連携しながら、スキルアップのための研修システムを構築しておくことが不可欠であろう。この点については現在日本栄養士会において、特定保健指導の実践を通して、保健指導実践者育成研修を修了し、一定以上の資質と活動実績を備えた管理栄養士を「特定保健指導担当管理栄養士」としてスキル認定し、人材活用を推進する計画を立てている。認定者については、認定者を保健指導事業者へ優先的に紹介するだけでなく、認定者のスキルアップをバックアップするための研修プログラムを提案したり、認定制度の広報普及を図り、社会的認知を高めるなどの取り組みを行なう。また、認定者同士のコミュニケーション支援（情報誌発行など）なども検討されており、組織的な認定者への支援体制が構築される計画である。特に特定保健指導の実践能力が認定されることにより、質の高い特定保健指導実施者を育成することにつながり、アウトカムが評価される今回の制度において重要性が高いと考えられる。この制度についての認知度は 40%程度に止まっていることから、今後の周知方法や制度の定着が待たれるところである。

〆切 3月15日(消印有効)

**特定保健指導実践者育成研修を修了した方への  
緊急アンケート調査への協力をお願い**

あなたは特定保健指導の実践者育成研修を修了し、日本栄養士会の研修修了者名簿に登録されました。下記のアンケートは今後特定保健指導の担い手として活動する意思や予定等についての質問です。なおこの調査は無記名で行なうもので、管理栄養士が特定保健指導の分野で活躍する環境整備を行うための貴重な基礎資料といたします。従って、個人が特定されることはありませんし、これにお答えいただいたことにより、個人情報として、他の目的に使用することはありません。また公表するデータは全て集計した結果のみです。大切なアンケートですので、ぜひご協力をお願いいたします。回答方法は該当するものを選んでマスの中に○を入れてください。締め切りは3月15日です。恐れ入りますが、それまでに同封の返信用封筒に入れて返送していただけますようお願い申し上げます。なおこの調査は平成19年度厚生労働科学研究費補助金を受けて実施されています。

同志社女子大学教授(日本栄養士会学術研究部長) 小松龍史

## アンケート回答

1 あなたは現在定職(非常勤を含む)についていますか？

- |   |  |                              |
|---|--|------------------------------|
| ① |  | 管理栄養士として定職についている             |
| ② |  | 管理栄養士とは異なった定職についている          |
| ③ |  | 定職についていないが管理栄養士として非定期に活動している |
| ④ |  | 現在は職についていない。                 |

2 あなたは現在、日本栄養士会などの職域協議会に所属していますか？

- |   |  |              |
|---|--|--------------|
| ① |  | 行政栄養士協議会     |
| ② |  | 学校健康教育栄養士協議会 |
| ③ |  | 病院栄養士協議会     |
| ④ |  | 福祉栄養士協議会     |
| ⑤ |  | 集団健康管理栄養士協議会 |
| ⑥ |  | 地域活動栄養士協議会   |
| ⑦ |  | 研究教育栄養士協議会   |

3 あなたは特定保健指導を行う予定はありますか？

- |   |  |                     |
|---|--|---------------------|
| ① |  | すでに特定保健指導に携わる予定がある。 |
| ② |  | 現在、特定保健指導に携わる予定は無い。 |

3において①すでに特定保健指導に携わる予定があると答えた方にお尋ねします。

3-(1) どのような組織に所属して行う予定ですか？(現在所属している場合も含む)

- |   |  |                  |
|---|--|------------------|
| ① |  | 医療保険者            |
| ② |  | 医療機関             |
| ③ |  | 健診機関             |
| ④ |  | 自治体              |
| ⑤ |  | 保健指導請負企業         |
| ⑥ |  | 栄養士会(栄養ケアステーション) |
| ⑦ |  | 個人活動             |
| ⑧ |  | その他( )           |

3-(2) 雇用形態どのようなものですか？

- |   |  |        |
|---|--|--------|
| ① |  | 常勤     |
| ② |  | 常勤的非常勤 |
| ③ |  | パートタイム |
| ④ |  | 派遣     |

3において②現在、特定保健指導に携わる予定は無いと答えた方にお尋ねします。

3-(3) 今後、特定保健指導に従事する意思はありますか？(複数回答可)

- |   |                          |                                    |
|---|--------------------------|------------------------------------|
| ① | <input type="checkbox"/> | 特定保健指導者の募集があればぜひ応募したい。             |
| ② | <input type="checkbox"/> | 自ら積極的に売り込みたい                       |
| ③ | <input type="checkbox"/> | 既に従事できるところを探している。                  |
| ④ | <input type="checkbox"/> | 栄養士会の栄養ケアステーションに人材登録する(または登録している)。 |
| ⑤ | <input type="checkbox"/> | 今は出来ないが、将来機会があれば行いたい。              |
| ⑥ | <input type="checkbox"/> | 今のところ保健指導に従事することは考えていない。           |

4 あなたが実際に特定保健指導を行うことになった場合、どのような不安がありますか？(特に感じるものを3つ以内で選んでください。)

- |   |                          |                                   |
|---|--------------------------|-----------------------------------|
| ① | <input type="checkbox"/> | 特に不安は無い。                          |
| ② | <input type="checkbox"/> | 面接技術に不安がある。                       |
| ③ | <input type="checkbox"/> | コンピュータ操作が多いと思われるので不安がある。          |
| ④ | <input type="checkbox"/> | 待遇の面で不安がある。                       |
| ⑤ | <input type="checkbox"/> | 継続指導の事後評価に不安がある。                  |
| ⑥ | <input type="checkbox"/> | 対象者の課題を見出し問題解決までの手順がうまく出来るか不安がある。 |
| ⑦ | <input type="checkbox"/> | 対象者との間にトラブルが発生しないか不安がある。          |
| ⑧ | <input type="checkbox"/> | 個別栄養指導の経験が無い(または少ない)ので不安がある。      |

5 特定保健指導を行う場合、あなた自身何をすべきと考えますか？自分にとって重要と思われるものを3つ以内選んでください。

- |   |                          |                     |
|---|--------------------------|---------------------|
| ① | <input type="checkbox"/> | 経験を積む。              |
| ② | <input type="checkbox"/> | 研修会にできるだけ参加する。      |
| ③ | <input type="checkbox"/> | パソコン教室に通う(または練習する。) |
| ④ | <input type="checkbox"/> | 関連の参考書で自己学習をする。     |
| ⑤ | <input type="checkbox"/> | 十分な保険をかける。          |
| ⑥ | <input type="checkbox"/> | 教材やパンフレットを収集する。     |

6 今後どのような研修を受けたいですか？(特に受けたいもの3つ以内で選んでください。)

- |   |                          |                        |
|---|--------------------------|------------------------|
| ① | <input type="checkbox"/> | 特定保健指導技術の基本的事項に関する研修   |
| ② | <input type="checkbox"/> | 特定保健指導技術をさらに高めるための研修   |
| ③ | <input type="checkbox"/> | 特定保健指導のロールプレイなど実技を伴う研修 |
| ④ | <input type="checkbox"/> | 特定保健指導の事例検討            |
| ⑤ | <input type="checkbox"/> | リスクマネジメントに関連した研修       |
| ⑥ | <input type="checkbox"/> | 特定保健指導の最新の動向に関する研修     |

裏へつづく

7 日本栄養士会では研修修了者の中で、実際に特定保健指導を実施し、一定の審査に合格した方を「特定保健指導担当管理栄養士」として保健指導のスキルを評価認定して、認定者の活動を積極的に支援する仕組みをつくる計画をしています。このような計画があることをご存知ですか？

- ①  知っている
- ②  初めて知った

8 「特定保健指導担当管理栄養士」の認定を受けることについてどのようにお考えですか？

- ①  自分の特定保健指導技術が第三者的に評価されるので、認定を受けて今後の活動に活かしたい。
- ②  認定の状況を見て判断したい
- ③  認定を受けたいとは思っていない。

9 特定保健指導に関して日本栄養士会あるいは都道府県栄養士会へのご意見ご希望などがありましたら、記述してください。

ご協力ありがとうございました。

特定保健指導実施者の確保に関する研究（2）

—管理栄養士養成校卒業者アンケートから見た人材確保のあり方—

主任研究者	同志社女子大学教授	小松龍史
分担研究者	東京農業大学教授	川野因
分担研究者	関東学院大学准教授	井上浩一

研究要旨

本研究は、特定保健指導を円滑に遂行するための実施者確保、特に管理栄養士の確保に関して、どのようなアプローチを取るべきかを明らかにすることを目的として、管理栄養士養成課程の卒業者に対して、就業実態、特定保健指導に対する考え方、管理栄養士免許保有者としての今後の活動予定等に関するアンケート調査を実施した。アンケートは平成20年3月に東京農業大学（以下東農大）1861名および同志社女子大学（以下同女大）2043名の管理栄養士養成課程第一期卒業者から平成19年3月卒業者全員に対して実施された。アンケートの回収率はそれぞれ38.5%、56.5%であった。定職に就いている者は東農大75.7%、同女大64.9%で、管理栄養士として定職に就いている者は、東農大31.2%、同女大33.2%と両大学ほぼ同程度であった。20代が最も高く、東農大で49.5%、同女大は59.2%が管理栄養士職についていた。若い卒業生は管理栄養士として就職するが、年齢とともに低下した。一方、両大学とも管理栄養士として働いている者の60%程度が職能団体の日本栄養士会に所属していた。その内特定保健指導に従事する予定があると答えた者は東農大24.7%、同女大34.6%にのぼり、単純計算では日栄会員の管理栄養士の11000～12000人に相当する。しかし、多くは定職についておりフレキシブルな人材確保に結びつくかは不明である。一方、特定保健指導に携わる予定のない者の内、特定保健指導の募集があれば是非応募したいと答えたものが、東農大が24.8%、同女大が24.3%いた。さらに、免許を活かした活動をしていない卒業生が両大学とも60%を超えていたが、その内、東農大が34.1%、同女大が36.1%が、機会があれば管理栄養士として活動したいと答えており、今後の特定保健指導実施者確保の面で大きな潜在的供給源となりうると考えられた。これらの人材を確保するには再教育プログラムの構築が必要であるとともに、潜在的な人材を見出し活用に至らしめるかについて

ては、管理栄養士養成施設の協力を得る仕組みの構築が比較的現実的であると考えられた。また、このような人材の窓口や研修システムの構築は職能団体である日本栄養士の役割であると考えられ、地域拠点としての「栄養ケアステーション」の確立が急がれる。

### A. 研究目的

「高齢者の医療の確保に関する法律」(昭和57年法律第80号)等に基づく特定健康診査・特定保健指導がスタートすることとなり、そこで、

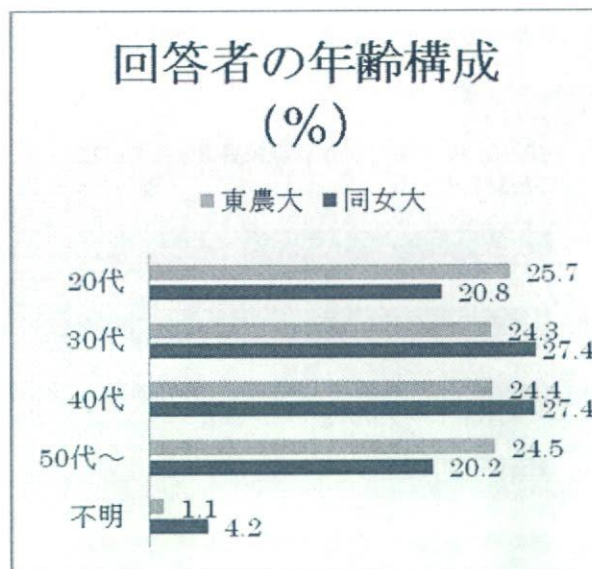
### B. 対象と方法

平成20年2月に東京農業大学(以下東農大)および同志社女子大学(以下同女大)における管理栄養士養成課程卒業生全員、それぞれ1861名、2043名に対して、アンケート用紙を送付した。なおアンケートには、アンケートの趣旨とともに、回答者の特定ができないように無記名で行い、個人情報保護されている旨を説明した。アンケートの内容は別添資料1および2に示す。

### C. 結果

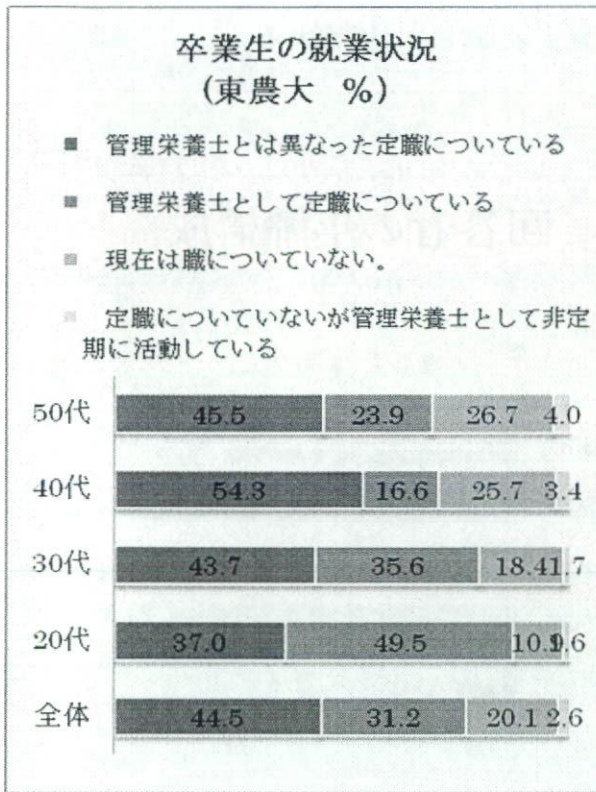
アンケートに回答した卒業生は東農大717名、同女大1155名であり、回収率はそれぞれ38.5%、56.5%であった。回答者の年齢構成は図1のようにほぼ各年齢層が均衡していた。

【図1】

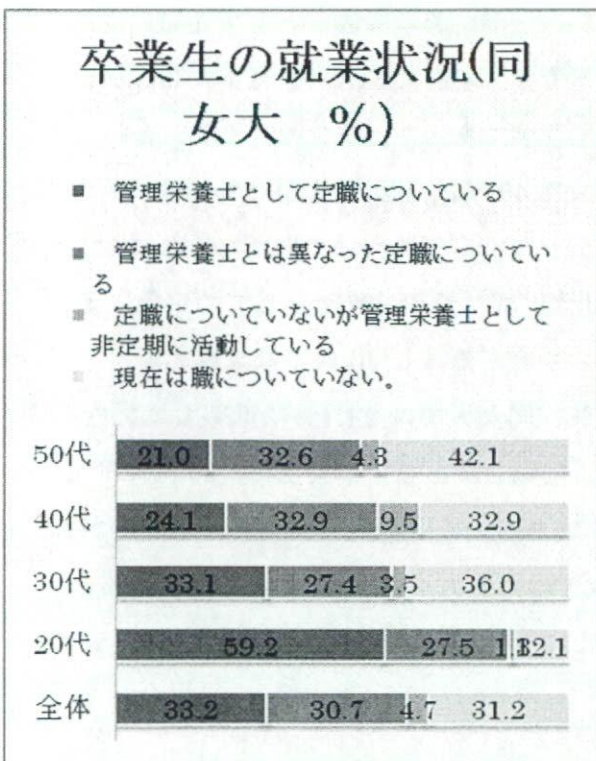


回答者の内、定職に就いている者は東農大75.7%、同女大64.9%でやや東農大が高い傾向にあったが、管理栄養士として定職に就いている者は、東農大31.2%、同女大33.2%とほぼ同程度であった。また20代の卒業生は東農大で49.5%、同女大は59.2%の者が管理栄養士として定職についていた。これに対して30代以降は管理栄養士としての定職に就く者の割合が漸減し40代では東農大では16.6%、同女大では24.1%に低下していた。一方、定職を持たない卒業生は、20代では東農大10.9%、同女大12.1%であったものが、40代では東農大25.7%、同女大で32.9%と増加していた(図2、図3)。

【図 2】

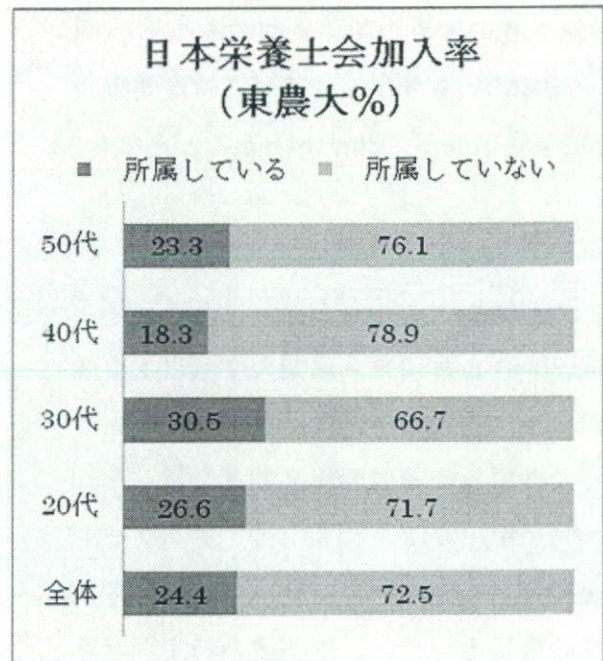


【図 3】



職能団体である日本栄養士会に所属している者は東農大、同女大それぞれ 24.4%、26.1%で、年代ではともに 30 歳代が 30%以上を占めていた(図 4、図 5)。

【図 4】



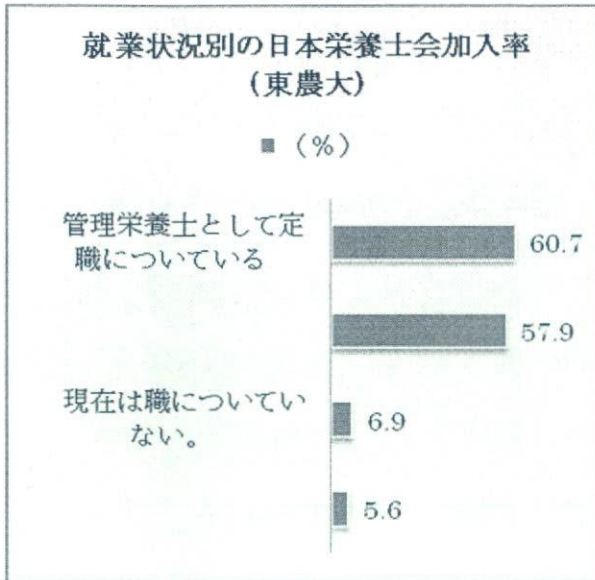
【図 5】



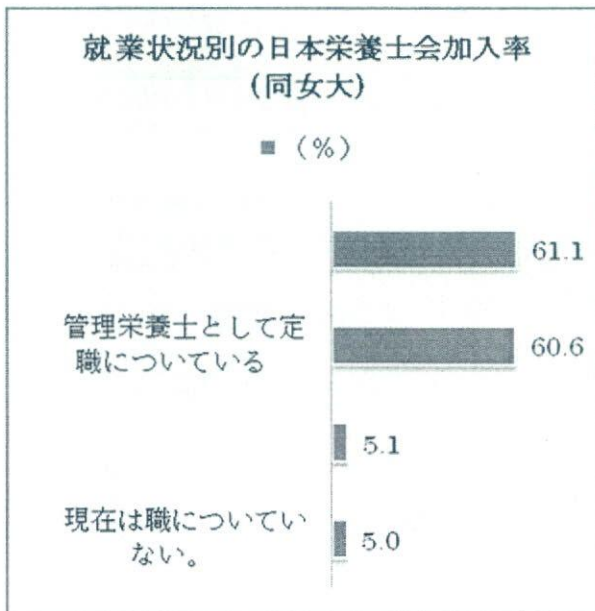


また、就業状況別にみると、管理栄養士として定職に就いている者、あるいは定職には就いていないが管理栄養士として活動している者がともに60%程度の者が加入しており、両大学とも同様の傾向であった(図6、図7)。

【図6】



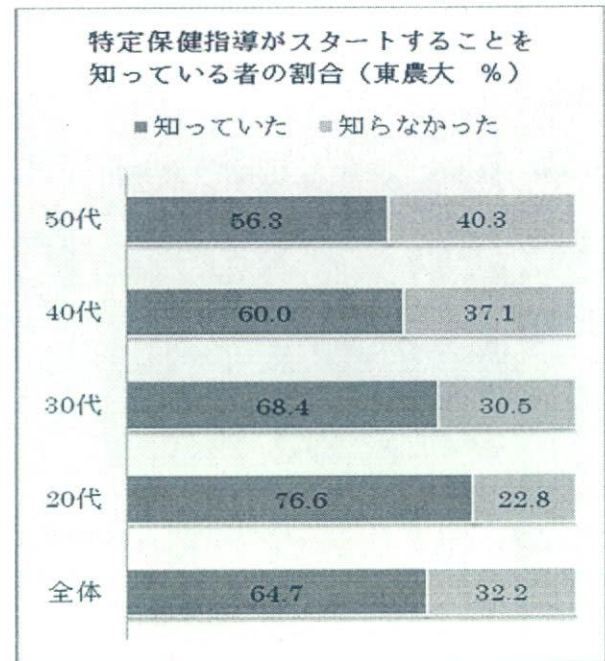
【図7】



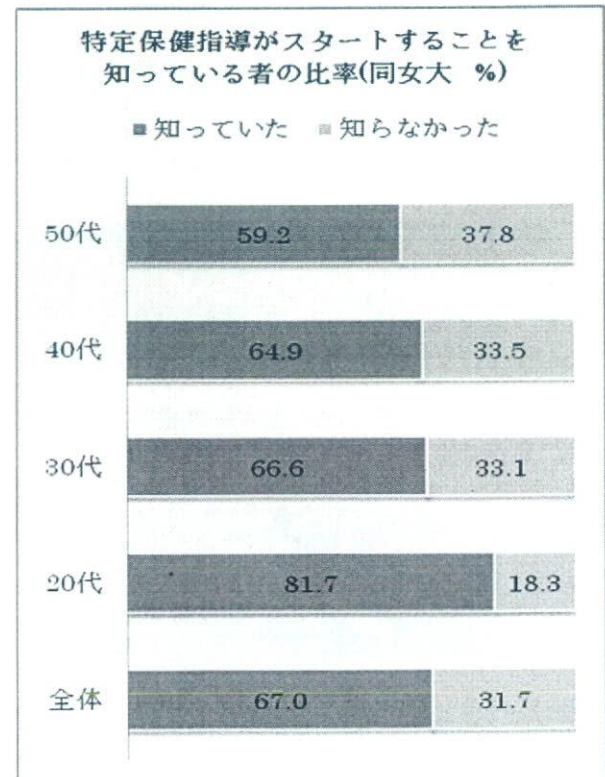
一方、特定保健指導が開始されることを知っている者は、東農大、同女大それぞれ64.7%、67.0%でおよそ2/3が知っていることにな

る(図8、図9)。しかし、日本栄養士会加入者は両大学とも95%の者が知っていたが、非加入者は57%の者しか知っていなかった(図10、図11)。

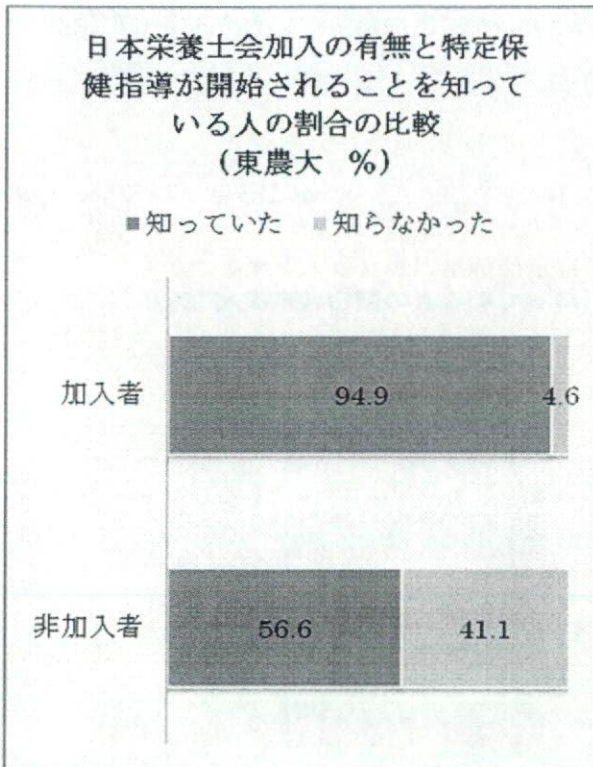
【図8】



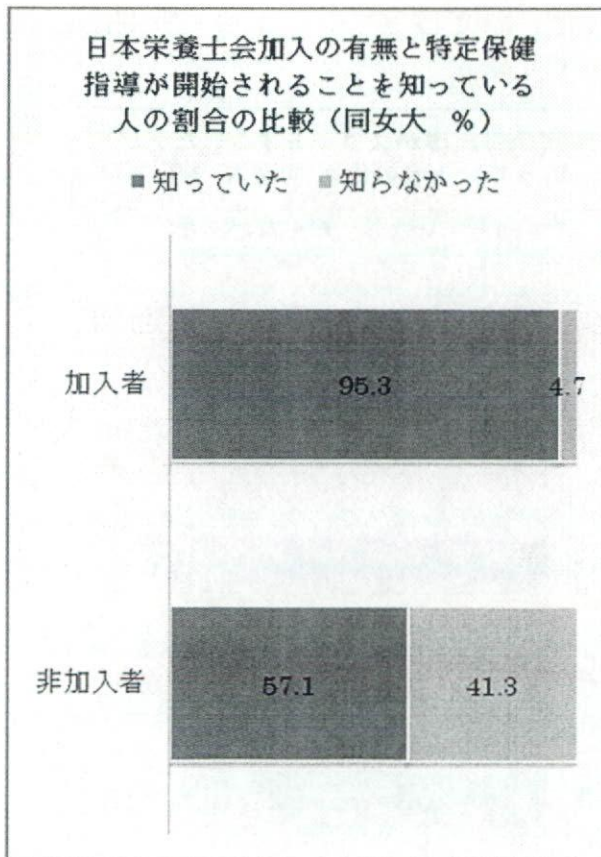
【図9】



【図 10】

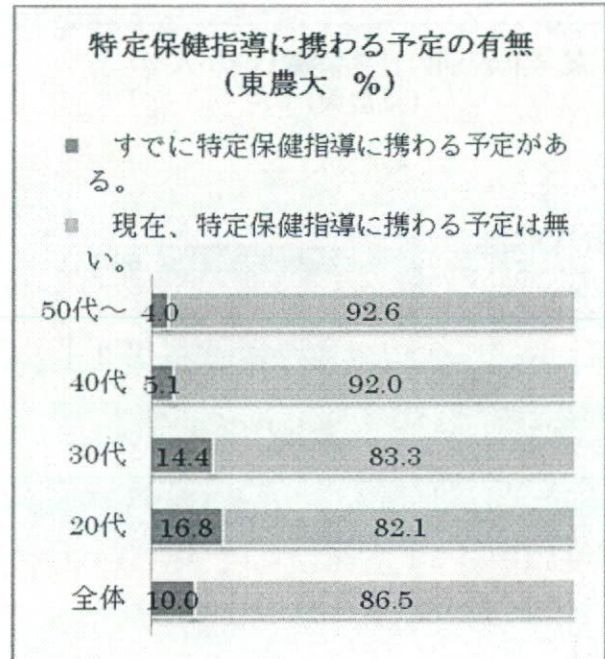


(図 11)

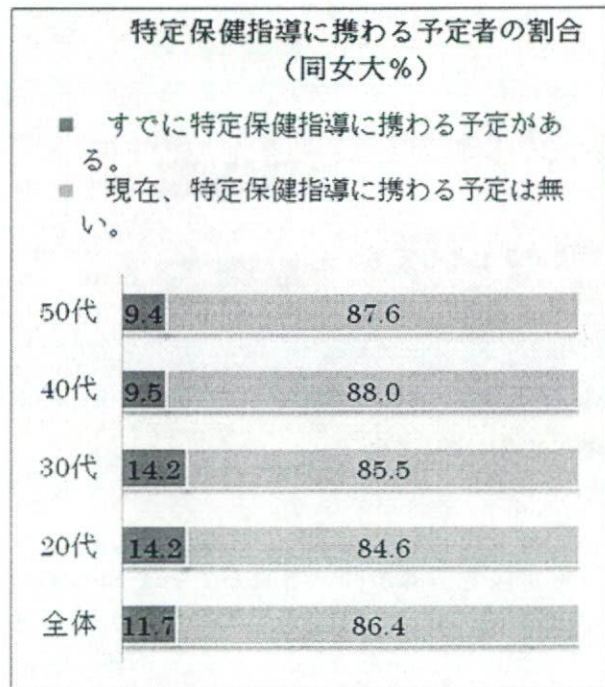


次に、特定保健指導に従事する予定者がどの程度いるかを見ると、東農大では回答者の10%、同女大では12%の者が予定していると回答した(図 12、図 13)。年代別には20代、30代がやや多い傾向が見られた。

【図 12】

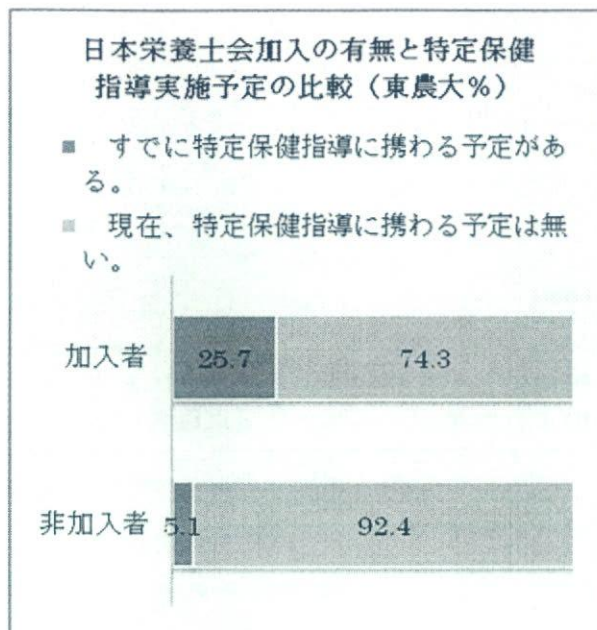


【図 13】

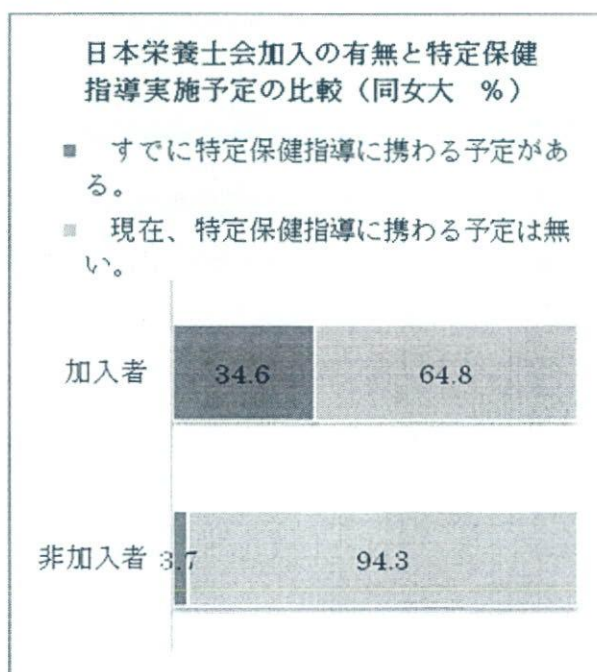


さらに、日本栄養士会加入者の特定保健指導に携わる予定者の割合は東農大 25.7%、同女大 34.6%に上った。非加入者の多くは非就業者であったり、定職を持っていても管理栄養士の免許とは関係のない職についている(図 14、図 15)。

【図 14】



【図 15】



次に、当面特定保健指導に携わる予定のない者は全体で、東農大 86.5%、同女大 86.4%いるが、この人たちが特定保健指導とかかわる意思があるかどうかを尋ねたところ、募集があれば是非応募したいと答えたものが、東農大が 24.8% (表 1)、同女大が 24.3% (表 2) いた。

表1 特定保健指導を行う予定がない者の特定保健指導に対する思い (東農大) (%)

	全体	20代	30代	40代	50代
今は出来ないが、将来機会があれば良い。	53.2	62.3	55.9	47.8	47.9
今のところ保健指導に協賛することは考えていない。	29.2	21.9	26.2	31.1	36.8
特定保健指導者の募集がなければならぬ。	24.8	29.8	28.3	26.7	15.3
栄養士の栄養ケアステーションに相談する(または登録している)。	4.0	2.0	2.1	4.3	7.4
自己積極的に申し込みたい。	3.4	2.0	3.4	6.2	1.8
既に協賛できるところを探している。	1.8	2.0	1.4	2.5	1.2

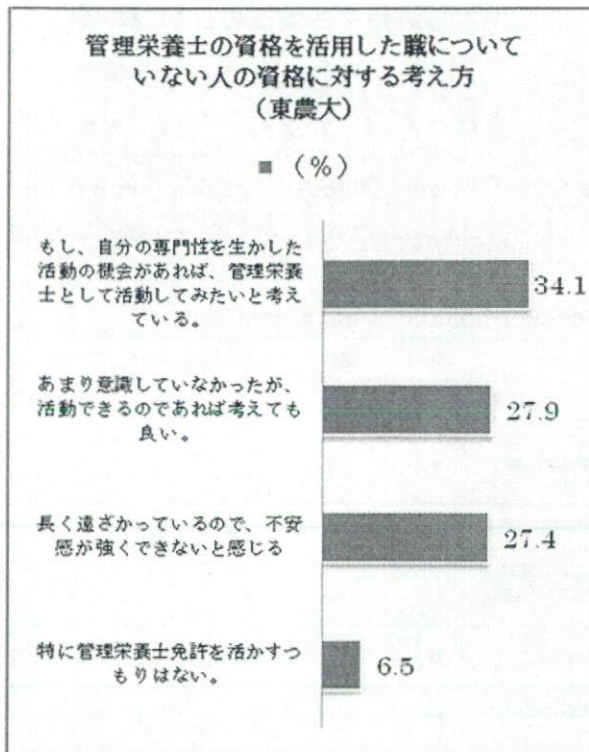
表2 特定保健指導を行う予定がない者の特定保健指導に対する思い (同女大) (%)

	全体	20代	30代	40代	50代
今は出来ないが、将来機会があれば良い。	50.1	52.7	58.0	44.6	42.2
今のところ保健指導に協賛することは考えていない。	31.6	28.1	20.7	31.7	48.5
特定保健指導者の募集がなければならぬ。	24.3	27.6	26.9	23.7	19.6
栄養士の栄養ケアステーションに相談する(または登録している)。	4.5	2.5	4.1	5.0	6.4
自己積極的に申し込みたい。	3.0	3.4	3.7	2.9	1.5
既に協賛できるところを探している。	1.7	3.4	1.1	1.4	0.5

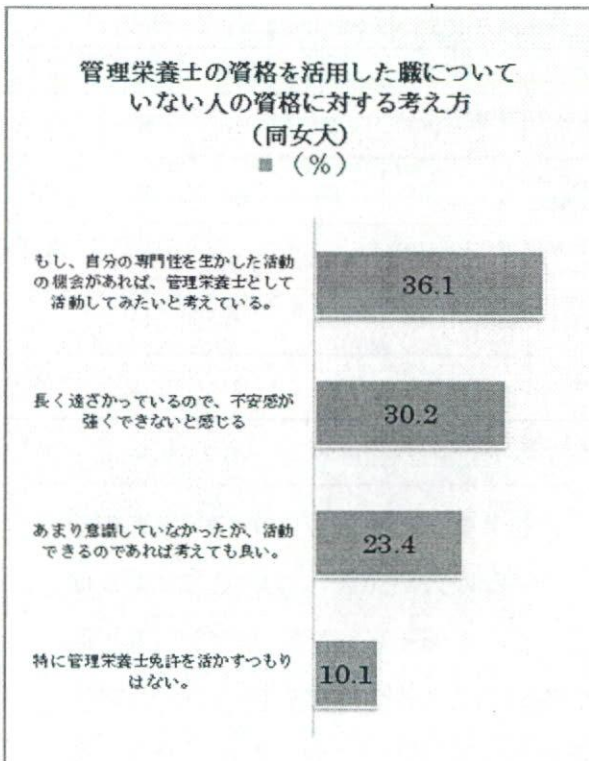
また、管理栄養士の免許を活かした仕事や活動をしていない人が免許についてどのように考えているかを聞くと、東農大が 34.1%、同女大が 36.1%の人が、活動の機会があれば管理栄養士として活動したいと答えている。やや消極的ながらも考えても良いと思っている

人がそれぞれ 27.9%、30.2%いる(図 16、図 17)。

【図 16】

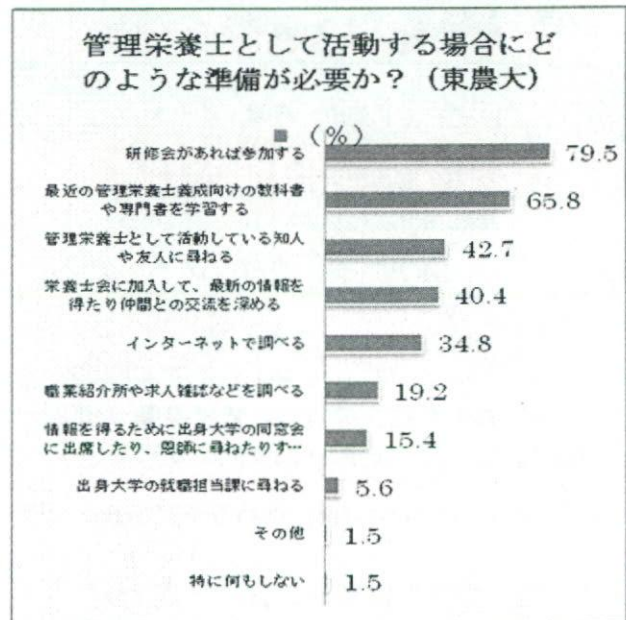


【図 17】

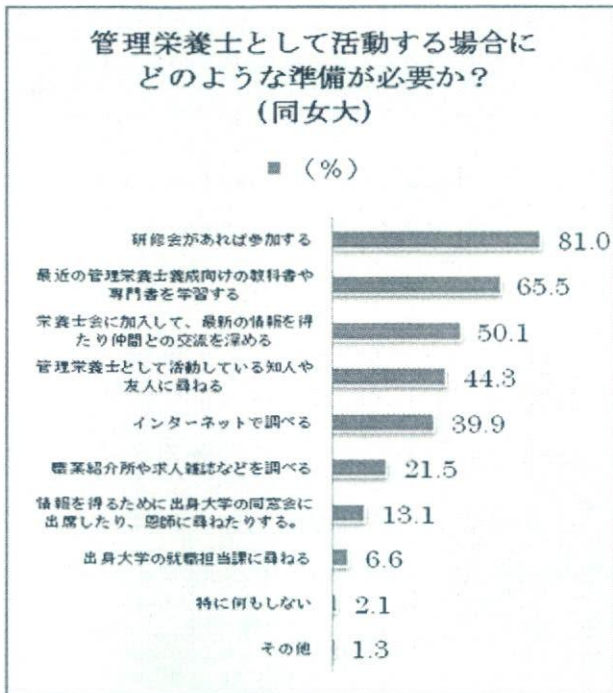


また、このような人たちが、管理栄養士として活動しようとする場合、どのような準備が必要と考えるかという質問には、研修会へ参加する、最近の管理栄養士養成向けの教科書や専門書で学習する、栄養士会に加入して最新の情報を得たり仲間と交流を深める、管理栄養士として活動している知人や友人に尋ねるなどが、40%以上の高率を示した(図 18、図 19)。

【図 18】



【図 19】



#### D. 考察

今回、比較的歴史が古く管理栄養士養成の実績がある2大学での調査であったが、多くの興味深い結果が得られた。まず定職に就いている者は東農大 75.7%、同女大 64.9%で7割前後の卒業生が定職に就いている。また管理栄養士として定職に就いている者は、東農大 31.2%、同女大 33.2%とほぼ同程度で30%強であった。年齢とともに低下する傾向がみられ、20代の卒業生が最も高く、東農大で 49.5%、同女大は 59.2%の者が管理栄養士として定職についていた。これらのことは若い卒業生は管理栄養士として就職するが、結婚等のライフイベントを境に専門職から離れる傾向にあるのかもしれない。一方、両大学とも管理栄養士として働いている卒業生の60%程度が職能団体である日本栄養士会に所属していることが判明した。これらは日本栄

養士会が調査した就業管理栄養士の入会率73%よりは低い値を示した。一方、会員である者は90%以上が特定保健指導のことを知っており、非会員より多くの関連情報を得ていることが推察された。また特定保健指導に従事する予定がある会員は東農大 24.7%、同女大 34.6%にのぼり単純計算では、日栄会員の管理栄養士の30%およそ11000~12000人に相当する。この数値は大学が特定されており、ランダムサンプリングとは言えない面があるが、ある程度特定保健指導の実施者の推定根拠になりうると考えられる。第3回保険者による検診・保健指導の円滑な実施方法に関する検討会資料では平成20年度の特定保健指導実施者数は最低1341人必要としているが、すでに管理栄養士のみで大きく上回っていることになる。しかし、多くの場合定職を持っている管理栄養士であり、フレキシブルな人材の確保に結びつくかどうかは不明である。

一方、特定保健指導に携わる予定のない者は東農大 86.5%、同女大 86.4%いるが、この人たちに特定保健指導とかかわる意思があるかどうかを尋ねたところ、募集があれば是非応募したいと答えたものが、東農大が 24.8%、同女大が 24.3%いた。また、管理栄養士の免許を活かした活動をしていない卒業生は両大学とも60%を超えていたが、その内、東農大が 34.1%、同女大が 36.1%の人が、活動の機会があれば管理栄養士として活動したいと答えており、およそ卒業生の20%に相当している。この傾向は両大学よく似通っており、今後の実施者確保の面で大きな潜在的供給源と

なりうることを示している。

図表19: 特定保健指導の実施者の供給見通し

	医師	保健師	管理栄養士
市町村	*	22,313人	1,542人
病院・診療所	256,668人	9,826人	17,754人
事業所	690人	2,415人	1,715人
潜在(在宅)	2,059人	19,712人	5,772人
新規登録者	7,568人	7,425人	7,637人

\*行政機関に所属している医師が1,849人おり、その一部が市町村に在籍していると思われる

上の特定健康診査・特定保健指導の円滑な実施に向けた手引き(2008/02/29 Ver1.5) p 41 図表 19 においては、特定保健指導の実施者供給の見通しとして、関連施設等における就業者数などを参考に、実施者の確保は比較的容易であるとしている。しかしながら、これらの専門職すべてが特定保健指導の実施者として活動することはありえず、あくまでも母集団を見ている。今回の研究においては管理栄養士に関して具体的な数値が見えてきた。今回、管理栄養士養成施設の卒業生は卒業時にはかなりの者が管理栄養士免許を活かした職についているものの、全年代の平均では必ずしも多くはないこと、一方、機会があれば管理栄養士免許を活かした仕事に就きたいと考えている者が20%にのぼり、特定保健指導への関心度も高いことが示された。このような潜在的な特定保健指導実施候補者について

は、いわゆる専門職から離れていたことによる遅れを取り戻すためのキャッチアップが必要であり、このための「管理栄養士免許保有者のためのリカレント講座」のような再教育プログラムの構築が必要と考えられる。また、潜在的な人材を如何に見出し、活用に至らしめるかについては、今回のアンケート調査の回収率が高いこと、さらに近年大学におけるキャリアサポートの支援体制が、単に新卒者のみならず、既卒者に対しても手厚くなってきたことなどから、養成施設の協力を得る仕組みを構築することが比較的現実的ではないかと考えられる。

また、このような人材を特定保健指導につなげる窓口や研修システムの構築などは職能団体である日本栄養士の役割であると考えられ、地域拠点としての「栄養ケアステーション」の確立が急がれる。

東京農業大学管理栄養士養成課程卒業生への特定保健指導に関する  
緊急アンケート調査への協力をお願い

回答〆切:3月21日(消印有効)

拝啓

時下ますますご清祥の段、お慶び申し上げます。

さて、すでにご存じの方も多いたは存じますが、平成20年4月から、医療保険者(国保・被用者保険)に対し、40～74歳の加入者(被保険者・被扶養者)を対象とする、内臓脂肪型肥満に着目した生活習慣病予防のための健康診査(特定健康診査)及び保健指導(特定保健指導)の実施が義務づけられることとなりました。健診結果に基づきメタボリック症候群のリスクが高い人には継続的な特定保健指導が実施されますが、特定保健指導における指導者は、医師・保健師とともに管理栄養士が中心となって担うことが定められました。このような状況から、特定保健指導を担う管理栄養士を確保することが急務となっています。

そこで本学管理栄養士養成課程の卒業生の皆様に対し、就業者・非就業者あるいは職域を問わず、特定保健指導への関心をもっておられる方や従事しようと考えている卒業生の方々がどの程度おられるか、などを厚生労働省の平成19年厚生労働科学研究費の助成を受けて、緊急に調査を実施することとなりました。まことに恐れ入りますが同封のアンケートにお答えいただき返送用封筒に入れて来る3月20日返送していただきたくお願い申し上げます。

なお卒業生の住所は本学校友会の使用許諾を得て使用させていただきました。また調査は無記名で行なうもので、管理栄養士が特定保健指導の分野で活躍する環境整備を行うための貴重な基礎資料といたします。したがって、個人が特定されることはありませんし、これにお答えいただいたことにより、個人情報として、他の目的に使用することはありません。また、公表するデータは全て集計した結果のみです。大切なアンケートですので、ぜひご協力をお願いいたします。

**締め切りは3月21日です。**恐れ入りますが、それまでに同封の返信用封筒に入れて、下記宛てに返送していただきますようよろしくお願い申し上げます。

東京農業大学応用生物科学部栄養科学科公衆栄養学研究室教授 川野 因

\* 返送先 \*

〒156-0054

東京都世田谷区桜丘1-1-1

東京農業大学応用生物学部栄養科学科

川野 因

TEL&FAX 03-5477-2453

## アンケート回答

年齢  歳

性別  (男性は1、女性は2を入れてください)

1 あなたは現在定職(非常勤を含む)についていますか？

- ①  管理栄養士として定職についている
- ②  管理栄養士とは異なった定職についている
- ③  定職についていないが管理栄養士として非定期的に活動している
- ④  現在は職についていない。

2 あなたは現在、職能団体である日本栄養士会に所属していますか？

- ①  所属している
- ②  所属していない

2において①所属していると答えた方にお尋ねします

2-(1) 所属している職域協議会はどれですか？

- ①  全国学校健康教育栄養士協議会
- ②  全国行政栄養士協議会
- ③  全国研究教育栄養士協議会
- ④  全国集団健康管理栄養士協議会
- ⑤  全国地域活動栄養士協議会
- ⑥  全国病院栄養士協議会
- ⑦  全国福祉栄養士協議会

3 あなたは特定保健指導が平成20年4月から開始されることをご存知でしたか？

- ①  知っていた
- ②  知らなかった

4 あなたは特定保健指導において管理栄養士が中心的に関わることを知っていましたか？

- ①  知っていた
- ②  知らなかった

5 あなたは特定保健指導を行う予定はありますか？

- ①  すでに特定保健指導に携わる予定がある。
- ②  現在、特定保健指導に携わる予定は無い。



5において①すでに特定保健指導に携わる予定があると答えた方にお尋ねします。

5-(1) どのような組織に所属して行う予定ですか？(現在所属している場合も含む)

- ①  医療保険者
- ②  医療機関
- ③  健診機関
- ④  自治体
- ⑤  保健指導請負企業
- ⑥  栄養士会(栄養ケアステーション)
- ⑦  個人活動
- ⑧  その他( )

5-(2) 雇用形態どのようなものですか？

- ①  常勤
- ②  非常勤
- ③  パートタイム
- ④  派遣
- ⑤  その他( )

5-(3) あなたが実際に特定保健指導を行うことになった場合、どのような不安がありますか？(複数回答可:該当するものすべてに○をつけてください)

- ①  特に不安は無い。
- ②  面接技術に不安がある。
- ③  コンピュータ操作が多いと思われるので不安がある。
- ④  待遇の面で不安がある。
- ⑤  継続指導の事後評価に不安がある。
- ⑥  対象者の課題を見出し問題解決までの手順がうまく出来るか不安がある。
- ⑦  対象者との間にトラブルが発生しないか不安がある。
- ⑧  個別栄養指導の経験が無い(または少ない)ので不安がある。

5-(4) 特定保健指導を行う場合、あなた自身何をすべきと考えますか？自分にとって重要と思われるものを選んでください(複数回答可)。

- ①  経験を積む。
- ②  研修会にできるだけ参加する。
- ③  パソコン教室に通う(または練習する。)
- ④  関連の参考書で自己学習をする。
- ⑤  十分な保険をかける。
- ⑥  教材やパンフレットを収集する。

5において②現在、特定保健指導に携わる予定は無いと答えた方にお尋ねします。

5-(3) 今後、特定保健指導に従事する意思はありますか？(複数回答可)

- ①  特定保健指導者の募集があればぜひ応募したい。
- ②  自ら積極的に売り込みたい
- ③  既に従事できるところを探している。
- ④  栄養士会の栄養ケアステーションに人材登録する(または登録している)。
- ⑤  今は出来ないが、将来機会があれば行いたい。
- ⑥  今のところ保健指導に従事することは考えていない。

6

現在管理栄養士の免許を活用した職についていない方にお尋ねします。(1の質問に②または④とお答えになった方)

6-(1) あなたは管理栄養士免許保有者として、今後どのようにしたいと考えておられますか？

- ①  もし、自分の専門性を生かした活動の機会が増えるのであれば、管理栄養士として活動してみたいと考えている。
- ②  あまり意識していなかったが、活動できるのであれば考えても良い。
- ③  長く遠ざかっているので、不安感が強くできないと感じる
- ③  特に管理栄養士免許を活かすつもりはない。

6-(2) あなたは管理栄養士として活動するとすれば、どのような準備が必要と感じていますか？  
(複数回答可)

- ①  研修会があれば参加する
- ②  最近の管理栄養士養成向けの教科書や専門書を学習する
- ③  栄養士会に加入して、最新の情報を得たり仲間との交流を深める
- ④  情報を得るために出身大学の同窓会に出席したり、恩師に尋ねたりする。
- ⑤  出身大学の就職担当課に尋ねる
- ⑥  管理栄養士として活動している知人や友人に尋ねる
- ⑦  職業紹介所や求人雑誌などを調べる
- ⑧  インターネットで調べる
- ⑨  特に何もしない
- ⑩  その他( )

9

管理栄養士や特定保健指導に関して感じていることや、疑問に思うことなどがありましたら、記述してください。

ご協力ありがとうございました。

同志社女子大学管理栄養士養成課程卒業生への特定保健指導に関する  
緊急アンケート調査への協力をお願い

回答〆切:3月21日(消印有効)

拝啓

時下ますますご清祥の段、お慶び申し上げます。

さて、すでにご存じの方も多いたは存じますが、平成20年4月から、医療保険者(国保・被用者保険)に対し、40～74歳の加入者(被保険者・被扶養者)を対象とする、内臓脂肪型肥満に着目した生活習慣病予防のための健康診査(特定健康診査)及び保健指導(特定保健指導)の実施が義務づけられることとなりました。健診結果に基づきメタボリック症候群のリスクが高い人には継続的な特定保健指導が実施されますが、特定保健指導における指導者は、医師・保健師とともに管理栄養士が中心となって担うことが定められました。このような状況から、特定保健指導を担う管理栄養士を確保することが急務となっています。

そこで本学管理栄養士養成課程の卒業生の皆様に対し、就業者・非就業者あるいは職域を問わず、特定保健指導への関心をもっておられる方や従事しようと考えている卒業生の方々がどの程度おられるか、などを厚生労働省の平成19年厚生労働科学研究費の助成を受けて、緊急に調査を実施することとなりました。まことに恐れ入りますが同封のアンケートにお答えいただき返送用封筒に入れて来る3月20日返送していただきたくお願い申し上げます。なお卒業生の住所は本学キャリアサポートセンターの使用許諾を得て使用させていただきました。また調査は無記名で行なうもので、管理栄養士が特定保健指導の分野で活躍する環境整備を行うための貴重な基礎資料といたします。したがって、個人が特定されることはありませんし、これにお答えいただいたことにより、個人情報として、他の目的に使用することはありません。また、公表するデータは全て集計した結果のみです。大切なアンケートですので、ぜひご協力をお願いいたします。

**締め切りは3月21日です。**恐れ入りますが、それまでに同封の返信用封筒に入れて、下記宛てに返送していただきますようよろしくお願い申し上げます。

同志社女子大学生生活科学部食物栄養科学科臨床栄養学研究室教授 小松龍史

\* 返送先 \*

〒602-0893

京都市上京区今出川通寺町西入

同志社女子大学生生活科学部

小松龍史

TEL&FAX 075-251-4236

# アンケート回答

年齢  歳

1 あなたは現在定職(非常勤を含む)についていますか？

- ①  管理栄養士として定職についている
- ②  管理栄養士とは異なった定職についている
- ③  定職についていないが管理栄養士として非定期に活動している
- ④  現在は職についていない。

2 あなたは現在、職能団体である日本栄養士会に所属していますか？

- ①  所属している
- ②  所属していない

2において①所属していると答えた方にお尋ねします

2-(1) 所属している職域協議会はどれですか？

- ①  全国学校健康教育栄養士協議会
- ②  全国行政栄養士協議会
- ③  全国研究教育栄養士協議会
- ④  全国集団健康管理栄養士協議会
- ⑤  全国地域活動栄養士協議会
- ⑥  全国病院栄養士協議会
- ⑦  全国福祉栄養士協議会

3 あなたは特定保健指導が平成20年4月から開始されることをご存知でしたか？

- ①  知っていた
- ②  知らなかった

4 あなたは特定保健指導において管理栄養士が中心的に関わることを知っていましたか？

- ①  知っていた
- ②  知らなかった

5 あなたは特定保健指導を行う予定はありますか？

- ①  すでに特定保健指導に携わる予定がある。
- ②  現在、特定保健指導に携わる予定は無い。